

手引きのしかた

(目の不自由な人を安全に誘導するため)

北海道視覚障害者リハビリステーション協会作成
2015.04.01部分的に修正

手引きの基本

- 1 手引き者(手引きをする晴眼者)は視覚障がい者の横、半歩前に立ち、腕を自然に下げます。
- 2 視覚障がい者の肘に軽く手が肘をふれて、手引き者の腕の位置をしらせます。
- 3 視覚障がい者は手引き者の肘をうしろから持ちます。
- 4 手引き者が半歩前に立ったまま、歩調をそろえて歩きます。
- 5 後ろから押したり、抱きかかえるような誘導は、不安を与えるので、してはいけません。



手引きの基本形

狭いところでは

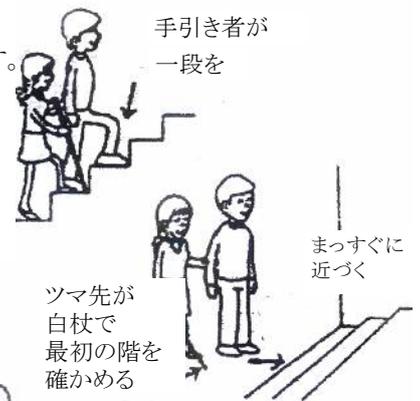
- 1 手引き者は二人分の幅をとります。二人分の幅がとれない狭いところでは、手引き者が先に立ち、前後に並んで通ります。手引き者の肘を曲げて自分の背中にまわし、合図します。
- 2 視覚障がい者は、合図に従って手引き者の真うしろにつきまます。このとき、視覚障がい者が腕を少し伸ばして間隔をとると、足を踏まずにすみます。
- 3 狭い所を通り過ぎたら、元の基本の形に戻ります。



狭いところでは

階段の昇降

- 1 手引きで階段に対して、できるだけまっすぐに近づきます。
- 2 階段の手前で立ち止まり、階段の上りか下りか伝えます。
- 3 つま先か白杖で最初の階を確かめてもらい、手引き者が先に立って上り下りします。
- 4 階段の終りで視覚障がい者が上り(下り)終るのを待って、階段の終りを告げ先に進みます。
- 5 階段の昇降も手引きの基本姿勢のままで、行います。
- 6 高齢者や足の不自由な人の場合は、手すりを持ってもらおうと安心です。
- 7 階段は、リズムカルに上り下りしたほうが安全です。



一時はなれる

- 1 一時的に離れて待ってもらうときは、壁や柱、ベンチなどのよりどころとなる場所に案内します。
- 2 離れる前に周囲の状況を簡単に説明しておきます。

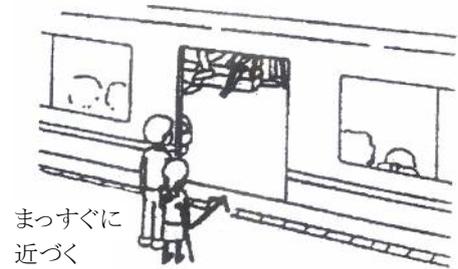


座席への誘導

- 1 イスの背もたれや座面に手を誘導します。
- 2 机があればそれも知らせます。
- 3 視覚障がい者が自分で触れることにより、座席の位置、向き、高さ、どんなイスなちがよく分かります。

交通機関の利用

- 1 バスの場合は、階段の要領で乗り降りしますが、安全のために手すりに誘導するとよいでしょう。
- 2 電車の場合は、ホームと電車の車体の間のみぞに注意してまたぎます。
- 3 手引きに慣れている人は手引きのまま乗り降りしても大丈夫です。



電車の利用

タクシーや車に乗る

- 1 視覚障がい者の手をドアと車体の屋根に触れるように誘導します。
- 2 あとは確かめてもらって乗るとよいでしょう。
- 3 降りるときは、周囲の車や足下に注意してください。



タクシー等の利用

喫茶店やレストランで

- 1 テーブルについたら、周囲の様子やテーブルの上を簡単に説明しましょう。
- 2 メニューは本人の好みを聞いて詳しく読みます。値段も読みましょう。



街角で

- 1 街角で視覚障がい者に出会ったとき、困っている様子であれば一声かけましょう。なにか役に立つかもしれません。
- 2 「どちらへいかれますか。」と聞くとよいでしょう。
- 3 同じ方向に行く場合は、手引きで案内をしましょう。
- 4 どこまで案内すればよいか聞き、お互いに無理のないように、わかりやすい場所まで案内しましょう。
- 5 案内を終えるときは、場所、方向、周囲の目印となる店や特徴などを簡単に説明しましょう。
- 6 お互いに気持ちのよい接し方ができるように、言葉遣いに気をつけましょう。
- 7 視覚障がい者がいつも手引きを必要としているわけではありません。断われても気にする必要はありません。また、次の機会に声をかけてみてください。

テーブルの上の説明

- 1 テーブル対してまっすぐに座り、正面のものを説明して確認してもらいます。
- 2 確認できたものを中心に、周囲のものを位置づけます。
- 3 コップなど位置をかえるときは、移動することと場所を伝えます。
- 4 時計の文字盤にたとえて位置を説明するとわかりやすいです。
- 5 調味料や砂糖などの利用は、本人に聞いて確かめましょう。

